

## 同窓会入会式代表あいさつ

私たち第76回卒業生の弦月同窓会入会式に際して、心強いお言葉をいただきありがとうございます。壇上の望洋会と橘会の旗を仰ぎ、弦月会の長い歴史と連続性を実感するとともにその一員になれますことを大変光栄に思います。

私たちの高校生活ではコロナ禍により中断、縮小された行事や伝統の復興が図られました。四校定期戦、体育大会、弦月祭、生徒総会、修学旅行、完全な状態で開催された時代を知る先輩方はいません。過去の資料や記録を参考に学年や学科の別なく侃侃諤諤の議論を重ね、私たちなりの大宮高校の在り方を考えました。時には先生方と対立し、またある時は友情に亀裂が入ることもありました。準備を重ね運営に資力を尽くしても思うようにいかず強い虚無感ややるせなさを感じたこともあります。しかし、その中で対話を重ね自分たちの理想をぶつけ合ううちに先生方の支持をえることもでき、亀裂の入った友情はより強固なものになりました。過去2年間の生徒総会の表題がスマートフォンや合唱コンクールを議題としつつも論点を自由、そして平等とは何であるかということにおいたことはその象徴です。初代総務委員長の渡辺綱纜先輩は「大宮の伝統は”規律ある自由”と皆が助け合う”こと。」とおっしゃいました。「自らの持つ母校への理想を当然のように語り合い、そしてそれに向かって皆が努力すること」これこそが大宮高校のアイデンティティであり渡辺先輩の想いであると思います。

ウクライナやパレスチナをはじめ、現代でも地球上では戦果が絶えません。校歌の作詞者である長嶺宏先生は真、美、善、を包含する人類普遍の理想として平和を掲げました。私たちも真理を追い求め、美を見出し、善行を重ねることを通してかけがえのない平和の大切さに想いを馳せること、そして大宮高校での学びと、大宮を母校と呼べることの喜びを携え同窓会の一員としてたゆまぬ努力を続けていくことを誓います。

令和6年2月29日 生徒代表 石渡照之